



## [ 観光の位置付け等について ]

### ( 位置付け )

- ・ 会長案ではコンセプト2として観光があげられているが、全部を併せたものが観光と思う。観光という位置付けを考えたい。
- ・ “ ものを見る観光 ” もあれば、“ 生活文化に触れる観光 ” もある。コンセプトとしてはそれぞれが重なってくる。
- ・ 観光についてはアレルギーがあるように感じる。市民意見交換会でも、滞在時間の短い観光客よりも、住民を中心に考えるべきとの意見があった。
- ・ “ 住んでいる人にとって住みよいまち ” が、観光客にとってもいいまちである。
- ・ 松江は観光を抜きにしては考えられないことを認識すべき。それを割り切ってまちづくりをすること。
- ・ 歴史や文化を大切にしたい観光地を目指す一方で、サティのような便利さを求める価値観があり、どうとらえていくべきなのか。
- ・ 観光が松江に及ぼす財政的な影響(効果)を具体的な数値で見せ付けることが一番である。その上で、さらに言葉を尽くすこと。(説明が足りていない。)
- ・ 住んでいる人が生き生きと暮らしていることが、観光につながる。

### ( 「不味公好み老舗会」について )

- ・ 「不味公好み老舗会」という任意組合を作って活動しており、今年で3年目になる。観光バスを町にいれて、町に残るお茶や菓子の本店を見てもらったり、散策してもらっている。町には普段から抹茶を飲み和菓子を食べる文化が残っており、自分達が生活しているそのままを見せてしまおうという発想から始めた。通常の物産展では生菓子は売っていないこともあり、観光客には非常に好評であり、参加者も増えている。一般にやっている普通のことが、外から見ると新鮮である場合がある。
- ・ 商店街に残る本店は採算ベースにのっていないが、アンテナショップとして考えている。
- ・ 合銀の白瀉ギャラリーも、観光客が町を散策する際に寄っていただける場所を用意する意味もありオープンした経緯がある。

### ( 観光ガイドとしての視点 )

- ・ 松江を初めて訪れる人のガイドをすると、天守閣からの眺望などには非常に感動される。
- ・ ゆっくり滞在して欲しいが、ツアーの時間的な制約から短時間にとどまり、まち歩きの時間が不足している。
- ・ まだまだ首都圏の人たちに松江の良さが理解されていないようだ。
- ・ 松江は“ 橋 ” が素晴らしい。橋の屈指のまち。
- ・ 観光客から観光地とまちがつながっていないとの意見があった。
- ・ 市民が観光に無関心な気がする。

## 【活性化の具体策について】

### [全般]

- ・ 資料 6 - 1 は、市でやっていることや、やりかけていること、ワーキングで話したことなどが盛込んである。
- ・ 出口としては「やること」、「やれること」、「やりたいこと」の3段階で考えたい。
- ・ 具体案を出す中で活性化の方向性も考えたい。
- ・ 水と緑のまちづくりの中に大橋からの景観もキーワードとして取り入れるべき。
- ・ 市民生活の動態保存が切り口だと思う。
- ・ 資料 6 - 1 はコンセプトから事業へつなげてあるが、地域による仕分けしてからでないと、具体のものがイメージできない。「この地域はこれがいい」という議論をしていく中で、具体の事業も見えてくる。
- ・ コンセプトに対してゾーンを評価して、地区を色分けしないと具体案が考えにくい。

### (アドバイザーより)

- ・ 外国ではクォーターという言葉を使う。中心市街地の中にクォーター特徴を持ったクォーター（地区）を設定して、ここは“歴史”、ここは“商業”といったように、特徴に合わせたまちづくりを行う。松江もこれでいいのではないか。
- ・ 観光商業は全国どこの都市でも主要なテーマになっているがやり方としては難しく、それを前提に考えたほうが良い。長野の善光寺では、観光客を表参道（商店街）に誘導するために、パティオを拠点として設け、誘導を試みている。松江駅からサティの間も回遊性が低いとの意見があった。いくつかの核を設けて、その核を中心にクォーターと言う形の性格付けをして、それにのっとった事業をそれぞれ展開する。その間の回遊性を付ける方法としては、循環バスや LRT などの活用がある。公共交通の活用が一つの方法だろう。

### [しんじ湖温泉の状況について]

- ・ 観光客の滞留時間が長く、第一印象となる地区である。
- ・ 松江には“温泉”という重要な資源がある。しんじ湖温泉では、外湯建設構想、老朽化した商業ビルの再開発構想、お湯かけ地蔵の整備構想、温泉駅北側の開発計画がある。
- ・ 線路と宍道湖に挟まれ駐車場が十分に確保できないという問題を抱えている。
- ・ 土地の用途等について規制のかかった地区であり、今後どうすべき考える必要がある。
- ・ 現在一畑電鉄は経営が苦しく、温泉駅がしんじ湖温泉地区の核となりきれない場合もあるのではと懸念している。その場合、核は温泉だけになってしまう。
- ・ 温泉駅は一畑電鉄だけではない。バスターミナルとしての機能もあり、西の玄関口。交通体系のひとつの拠点である。

- ・ 朝市、夕市は観光の切り口であり重要。早朝観光としてはエコクルーズ（白鳥号）

#### [ 観光等 ]

- ・ 団塊の世代の退職があり、当面は老夫婦をターゲットに考えたい。また、昔風のをめずらしがる若い方もいる。
- ・ 松江駅から観光客を案内する上で、途中途中で相応しいものがある場所を選定、整備することが必要。

#### ( アドバイザーより )

- ・ 温泉駅からしんじ湖温泉に向かうと、ホテル一畑の入口は温泉街側ではなく、しんじ湖側にあり、遠回りになる。また、市役所に向かうにも横断歩道が無く、危険。こうした小さなことからやらないと観光客はまちを歩かない。

#### [ ゾーニング等の規制について ]

- ・ 観光客が何回か訪れたときに「変わってしまったな」ということでは良くない。ある程度のゾーニングが必要。
- ・ ゾーニングを考えていく中に、具体的事業がある。
- ・ 市の都市計画では、再開発ビルのあたりは開発促進地区になっており、城の周辺に市民が相応しくないと考えるような建築物もたってしまう。
- ・ 規制を緩めるのは簡単だが、強めるのは難しい。現在、景観については、徐々に規制をかけていく方向で進んでいる。
- ・ 大手前線の拡幅については、沿線建築物の高さや、外壁、屋外広告物などに制限を設けており、地区のまちづくりとセットで考えている。
- ・ 景観法の規制では待てない。遅すぎる。
- ・ 宍道湖からお城の景観は大切なのに、ビルが建ってしまう。都市計画を変えることはできないのか。
- ・ 高度成長前の都市計画であり、現代に合わない部分もある。これからだんだんと景観規制を行っていく。個人の財産を規制することは難しい。
- ・ 北惣門橋（そうもん）からの車の進入規制については以前から議論あるが、迂回路が無い。歴史資料館付近の道路は当面一方通行化を計画。
- ・ 塩見縄手の隣には、住民の意思で開発はやめようとまとまった地区があり、自分たちの意思を表明することが大切と感じた。

## 【中心市街地の範囲について】

### [ 大橋川について ]

- ・ 以前、大橋川の面積をエリアから除外するという事も考えたが、大橋川は計画区域に入れるべきと思う。
- ・ 大橋川拡幅事業の件もある。
- ・ 大橋川そのものをいれるのがいい。

### [ 全般 ]

- ・ 基本的に国としては中心市街地は増やさない。エリアは小さく実効性あるものにするというのが方針。学園通りや田和山は入らないが、タテ町は入れてもいいとのことだった。
- ・ コンセプトがしっかりしていれば、それに合致した区域が中心市街地。
- ・ 資料5-2は、原案ではない。可能性のあるエリアを図示したもの。
- ・ 背伸びをしなくても、できるところからとの意見もある。
- ・ 生活文化を基本に考えると、町が違うからといって生活は変わらない。中心的な町については入れるべき。(北田町界限)
- ・ 幹線道路で区切るやり方、自治区域で区切るやり方がある。
- ・ 市内のいろいろなエリアが途切れている。しんじ湖温泉から松江城までの回遊性を考えると、途中のルートもエリア化すべき。
- ・ 松江城を見終わった後、どこへ抜けるかが観光の課題であり、区域に入れて考えたい。
- ・ (今日議論のあった範囲には)松江の観光と文化が、だいたい網羅させているのでは。
- ・ 商業面からは、学園通りを除いた商店会連合会加入の13商店街が全て入ることを歓迎。
- ・ 鬘どうを持っている町は古くいいまちである。商店街がなくても入れるべき。

### (アドバイザーより)

- ・ もともと今回の三法見直しとなったのは、総務省からの勧告で、中心市街地区域が広すぎて効果があがっていないのではないかと指摘があったことに端を発する。国としてはなるべく小さくしなさいということである。広げるとなった場合、認定を受ける際の本部協議に苦労するだろう。富山市は200haを400haに広げることに相当苦労していた。一般論としてエリアは広げない方が本部折衝はしやすい。

## 【鈴木委員作成の資料(“松江市中心市街地活性化計画基本コンセプトの提案”)について】

パワーポイントを用いて会長より紹介。配付資料はなし。

### [ 紹介内容 ]

- ・ 現状、期待の地域評価を表に取りまとめた。(エリア設定)
- ・ 拠点間のギャップ(まちあるきコースの設定)

- ・ 交通に関して（交通ターミナル機能整備）
- ・ 具体的な事業について（基本形画の策定に向けて）
- ・ 北校グラウンドの駐車場活用、県立美術館の区域編入、一畑バス旧車庫地の活用、赤十字病院を誘客施設として検討（ここまでで気がついたこと）

#### 【その他】

#### [ 今後のスケジュール等 ]

- ・ 次回の第 5 回対策協議会は、2 月中旬に開催。（2 / 14～16、22 で調整）
- ・ これまでの協議会での意見等を踏まえ、ワーキングで計画案を取りまとめ、次回第 5 回協議会に提示する。
- ・ 当初、協議会を 5 回開催する予定であったが、3 月にパブリックコメントをとり、その後、第 6 回協議会を追加開催する。

#### [ ホームページについて ]

- ・ 基本計画の策定過程等を公開するために、ホームページを設ける。